

行雲流水

No.46 令和3年5月28日発行

読書のススメ

校長 寒河江 正人

「**本を読む**」のは、好きだ。
いや、「**苦手だったのが、少しずつ好きになった。**」という方が正しいかもしれない。

私が中学時代に読んで、思い出に残っている本は、

まず1冊目は、^{もりあうがい}森鷗外^{たか せぶね}の「**高瀬舟**」。次に2冊目は、^{なかしまあつし}中島敦^{さんげつき}の「**山月記**」。

そして、3冊目は、^{やまもとしょうごろう}山本周五郎^{くらのすける す}の「**内蔵允留守**」。

今もそうだが、中学時代の私は、「**読むのが遅い**」、「**根気が続かない**」生徒だった。
だから、手に取るのは、どれも「**短編の小説**」ばかりだったのである。
有名な作品なので、すでに読んだことのある人もいるかもしれない。

「**短編だからといって、決して侮ることなかれ。**」

何歳になっても、何度読んでも、その年齢、その時々で、**深く考えさせられる名作**である。
中学生のときには、考えもしなかったことに、年をとって気付くことも、しばしばだ。
「**生きるとは**」、「**人間とは**」、自分と向き合い、**新たな感慨**に浸れる時間を生む。

本を読むことで、それまでは知らなかった「**世の中のこと**」や「**人間の生きざま**」に触れ、
読むたびに「**目からうろこが落ちる**」思いと「**知ることの喜び**」に気付かされるものだ。

本のいいところは、**好きなときに、自分のペースで、何度でも読み返せる**という点がある。
一回読んでわからなかったことも、時間を置いて読み返してみると、少しずつでも理解が
深まることがある。不思議なものだ。

刊行から37年経っても、なおベストセラーの「**思考の整理学**」を著した**外山滋比古**は、
「**思考の整理法**」としては、寝させるほど大切なことはない。「**長い間、心の中で温められていたものには、力がある。**」「**何事も、おやみに急いではいけない。**」と述べている。

欲張らずに、「**何か一冊**」を選び、読んで考え、「**じっくり自分と向き合う時間をつくる**」
というのも、「**自分の時間**」を有意義に、価値あるものにする「**人間の知恵**」である。